

1月24日（金） ドバイ（アラブ首長国連邦）

視察行程13：「ドバイ国際金融センター」訪問

【ドバイ国際金融センター（Dubai International Financial Centre、DIFC）概要】

アリヤ・アルザルニー最高執行責任者及び団長によるあいさつののち、ドバイの金融サービスについて説明を受けた。

ドバイ国際金融センターは国際金融都市を標榜する同国の心臓部分であり、銀行業務、ファンド組成、アセットマネジメントをはじめとした様々な金融サービスや企業を集積している。ドバイは新興都市のイメージがあるが、国際金融都市を目指したのは1970年代（前国王）からであり、50年近い年月を経て今の地位を確立している。中東にありながら石油ビジネスのGDP比率は2024年時点で2%程度であり、石油埋蔵量が多いわけではないため、その観点からも早期に金融・観光に舵を切った。ドバイの金融サービスは、地域の経済において重要な役割を果たし、ドバイ国際金融センターは中東、アフリカ、南アジア地域をターゲットにした金融のハブとして機能し、グローバルな金融機関、法律事務所、コンサルティングファームなどが集まり、国際的なビジネスの中心となっている。ドバイ国際金融センターは独自の法制度を持ち、英米法に基づいた運営を行っているため、世界の投資家や企業にとって安心してビジネスを行える環境を提供している。2030年までに入居企業数を2倍に増やし、就労者数を5万人規模に拡大することを目標にしている。また、サステイナブルファイナンスの規模を拡大し、100万人のサステイナブルリーダーを育成する計画をしている。

ドバイには多くの国際的な銀行が支店を構えており、幅広い金融サービスを提供している。これらには個人向けの銀行サービスから、企業金融、資産管理まで多岐にわたる。地元の主要銀行としては、ドバイ政府所有のエミレーツNBDやドバイ・イスラミック銀行などがあり、特にイスラム金融の市場も活発である。イスラム金融は、イスラム法に基づく金融サービスであり、ドバイの金融業界において重要なセクターである。利子を禁止し、リスクと利益を共有することを基本とするイスラム金融は、倫理的な投資として注目されている。

ドバイ金融市場では、株式、債券、その他の金融商品が取引されており、地元企業だけでなく国際企業の株式も取引されている。フィンテックの分野にも力を入れており、スタートアップの支援やイノベーションの促進が行われている。これにより金融サービスがより効率的で革新的なものになっている。AIやWeb3関連企業の誘致を進めている。

ドバイ国際金融センターの目的は「中東オイルマネーの受け皿」である。隣国サウジ等はオイルマネーが潤沢である一方で、厳格なイスラム教国であり、外国人の受け入れや企業誘致にやや消極的であった。そのような中で、中東のオイルマネーを世界へ循環させる意味ではドバイは地理的に好環境であり、まさに中東と世界を結ぶハブとなった。

また、そのような地理的条件を最大限活かすため金融特区ゾーンではイギリスの法律を適用し、外国への送金制限もない。当然に法人税等の租税の類はなく、ドバイで稼いだ収

益は全て移動が可能である。

その結果、約 1,600 社の金融系企業の誘致、約 4 万人の雇用を実現している。世界的に見ればドバイの金融市場は決して大きくないが、世界的に国際金融都市としてのブランディングに成功している。

【所感】

視察内容を踏まえると、大阪市の国際金融都市構想は後発となり、明確なメリットや特長を備えなければ実現は難しいと考える。大阪市が目指す国際金融都市とは何か。そのための KPI は何か。総花的ではなく、具体性を持った政策推進が必要だと感じた。



国際金融センターにて説明聴取
している様子

視察行程 1 4 : 「ドバイ未来博物館」視察

ドバイ未来博物館は、2022 年 2 月 22 日にオープンし敷地面積は約 3,000 平方メートルもある。『ナショナル・ジオグラフィック』にて、世界一美しい建造物の 1 つにも選ばれるだけあり、とても印象的な建物。モニュメントの形状はドーナツ状の独特のフォルムで、アラビック文字がデザインされており、外観のインパクト大である。

建築の傑作、革新のビジョン、そして未来を垣間見ることができる建物である。エミレーツタワーの近くに位置し、世界最先端の博物館をコンセプトに、技術の進歩、人工知能、ロボット工学、持続可能な開発について調査研究している。その象徴的なデザインは、アラビア書道で装飾されたステンレス鋼板で覆われた円環状の構造で、内部では、没入型の展示とインタラクティブな展示が革新的な体験を提供し、人類がどのようにしてより良い明日を形作ることができるかを示している。未来博物館は、示唆に富むインスタレーションや先進的なアイデアを通じて訪れた人を未来の可能性についての対話に招待し、テクノロジー愛好家と未来主義者にとって必見の目的地となっている。最先端テクノロジーや、科学的ソリューションを用いた没入体験型のミュージアムということもあり、エンターテインメント性が高く、長蛇の列になる程、大人気な博物館である。先ず、エントランスに入ると、エア・ペンギンというロボットが空を飛んでおり、壁にぶつからず空中を飛ぶ姿

は、長蛇の列の来館者を楽しませていた。入館時から演出があり、期待感が膨らんだ。



未来博物館の外観

展示のコンセプトは、主なテーマとして、「人類の未来」「テクノロジーの進化」「持続可能な発展」「イノベーションと創造性」の4つがあり、「未来技術ゾーン」「宇宙探査ゾーン」「AI・ロボティクスゾーン」「持続可能性ゾーン」の4つの展示区分がある。展示内容には様々な工夫があり、仮想現実（VR）体験や拡張現実（AR）技術、ホログラム技術、AI 対話システムなどで初心者でもわかりやすい表現で展示をしたり、リアルタイムデータ可視化、インテリジェント展示システム、パーソナライズド体験、多言語対応インターフェースを使ったデジタル技術を使ったりしている。

「人類の未来」展示エリアは、2071 年の宇宙ステーションに向けて、宇宙船型のエレベーターからスタートするという演出から始まる。因みに、2071 年は、UAE 建国 100 周年にあたる年でもあるとのことである。

未来のイノベーション、テクノロジーにより、持続可能な未来へと導くため、宇宙・自然・自身を知る旅を体感するという、アトラクションの様な内容である。

入場券になっているリボン型のリストバンドを各コーナーのセンサーにかざすことで没入体験が可能になる。5 階までの各階にコンセプトがあり、5 階は『2071 年宇宙旅行』の疑似体験空間。4 階は『癒しの研究所』という自然を学ぶ空間。3 階は『五感を研ぎ澄ます』という自身と向き合うウェルビーイング空間。2 階は『明日・今日』という近未来技術进行展示する空間。1 階はミュージアムショップとなっている。また、子どもだけが入れるゾーンが区切られていた。

【所感】

4 階の『library』という、ガラス状の生物の標本 2,400 種類を展示している部屋は圧巻であり、アート作品のように美しいだけではなく、絶滅危惧種を検索できるシステムになっており、種の保存という観点からも、とても考えさせられた。

3 階には私語厳禁の瞑想ルームがあり、感性を研ぎ澄ますという、従来の概念ではない博物館だと、改めて感じた。

森林破壊、気候変動、地球温暖化、生物多様性、人々の健康などの課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現というコンセプトでありながら、テーマパークのように飽きさせない工夫もあり、大人・子供、老若男女が楽しめるという、今までにない施設であった。言葉での理解ではなく、感じる博物館という印象でもあった。

改めて、体験型の学びは重要だと感じると同時に、観光客・インバウンド向けには有効であり、今後、博物館等の展示施設の在り方を考えさせられた。

視察全体の成果

1月25日に無事に関西空港に帰阪した。視察全体を通して、大阪・関西万博については、これまでの万博に比べても遜色ないものであり、2025年時点では世界最新のものであることが理解できた視察であった。また、万博を開催してからもたゆみないチャレンジを行うことが必要であることを、ドバイ万博から学ぶことができた。サウジアラビア王国からは、事前に決めすぎることをせずとも2030年の万博に向けた計画を世界最大規模に進めていけることも大きな学びであった。日本の正確性や勤勉は必要なことであるかも知れないが、世界各国が、テーマに沿った最新技術を基にして世界の平和と調和を目指す姿が万博には求められていることを、各国で携わる関係者から学ぶことができたことに心から感謝申し上げる。